

【概要版】

成田空港の更なる機能強化 環境影響評価に係る環境保全の取り組み (2025 年次版)

2026 年 9 月

成田国際空港株式会社

1. はじめに

成田国際空港では、今後予想される世界的な航空需要の増加に対応するため、既存滑走路の延長や滑走路の増設などを含む成田空港の更なる機能強化策の具体化に向け、2015 年 9 月より、国、県、空港周辺 9 市町、当社で構成される四者協議会で検討を開始した。その後、本機能強化に伴う周辺環境への影響について、環境影響評価法に基づく環境アセスメントを実施し、環境影響の評価とその保全措置等をまとめ、2019 年 9 月 27 日に「成田空港の更なる機能強化 環境影響評価書」（以下「評価書」という。）を公表した。

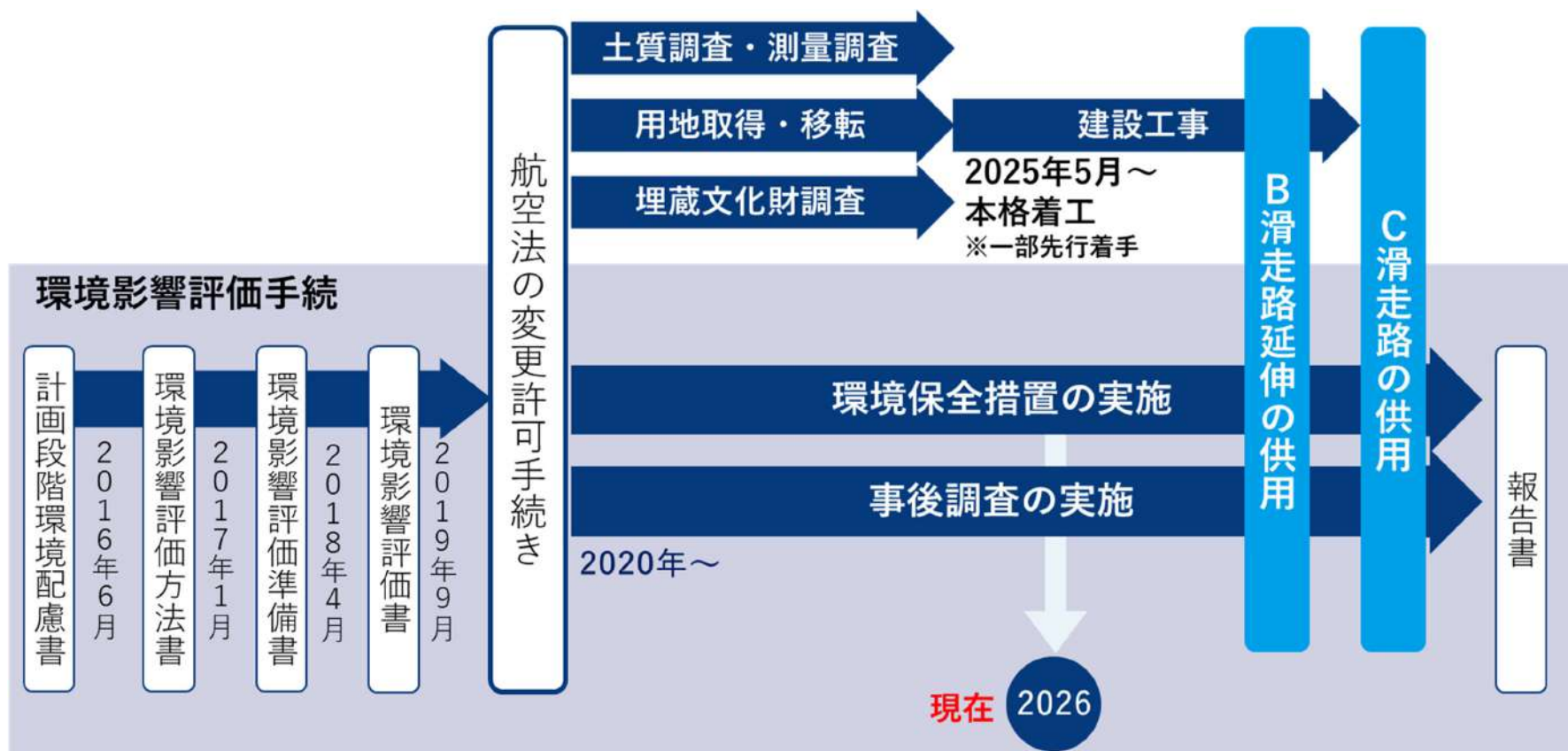
環境影響評価書では、環境への影響をできる限り回避・低減、又は代償する施策（環境保全措置）を実施することとしている。また、環境保全措置の実施効果や環境の状況を把握するための調査（事後調査）を実施することとしている。

2020 年 1 月に航空法に基づく空港等変更許可を頂き、同年より埋蔵文化財調査等の現地調査を進めている。2025 年 5 月には本格工事に着工しており、2026 年 4 月現在、B 滑走路の延伸部については、2029 年度内の供用を目指して整備を進めている。C 滑走路の新設については、引き続き用地取得を進めるとともに、埋蔵文化財調査等や各種工事を実施している状況である。

環境保全措置は、空港等変更許可を頂いた 2020 年以降、埋蔵文化財調査等と並行して実施可能なものから順次作業を進めており、併せて事後調査も継続的に実施している。2025 年度は用地取得及び工事の進捗状況に応じて、動物・植物の移設・移植等の環境保全措置を実施し、併せて過年度に実施した環境保全措置の効果を確認するための事後調査を実施した。また、大気質及び水文環境に関しては工事中の調査を実施した。

本資料は、その結果を取りまとめたものである。

(参考) 環境影響評価手続の経緯



(参考) 空港周辺の状況 (2025 年 1 月撮影)



2. 環境保全措置及び事後調査の実施状況

「成田空港の更なる機能強化 環境影響評価書」（2019 年 9 月 27 日公表）に記載された事後調査項目及び 2025 年度における実施状況は表 2-1 に示すとおりである。なお、同表には事後調査の対象とした環境保全措置の実施状況も記載した。

2025 年 5 月には本格工事に着工しており、2026 年 4 月現在、B 滑走路の延伸部については、2029 年度内の供用を目指して整備を進めている。C 滑走路の新設については、引き続き用地取得を進めるとともに、埋蔵文化財調査等の調査や各種工事を実施している状況である。

2025 年度は用地取得及び工事の進捗を踏まえ、動物・植物の移設・移植等の環境保全措置を継続して実施し、あわせて事後調査を実施した。また、大気質及び水文環境に関して工事中の調査を実施した。

表 2-1 環境保全措置・事後調査項目とその実施状況

環境要素の区分	事後調査の項目	2025年度	
		環境保全措置の 実施状況	事後調査の実施 状況
大気質	建設機械の稼働による二酸化窒素	○	—
	造成等の施工及び建設機械の稼働による粉じん	○	○
騒音	建設機械の稼働による建設作業騒音	○	—
	航空機の運航による航空機騒音	○	—
水文環境	河川流量	○	○
	地下水位	○	○
	地下水質		
	湧水		
動物	工事工程の調整、工事中の騒音対策、工事区域の仮囲い	○※1	○※1
	ホトケドジョウの生息環境保全	○	○
	谷津機能を維持した調整池の設置、谷津環境の整備・維持管理	○	○
	人工代替巣の設置	—	○
	巣箱の設置	—	○
	代替営巣林の整備	—	○
	コウモリボックスの設置	—	—
	改変区域外への個体の移設、生息域外保全	○	○
	アクセス道路等における側溝の蓋がけや脱出スロープの設置	—	—
植物	谷津機能を維持した調整池の設置、谷津環境の整備・維持管理	○	○
	改変区域外への個体の移植	○	○
	下流水路からの個体の移植	—	—
生態系	ホトケドジョウの生息環境保全	○※2	○※2
	谷津機能を維持した調整池の設置、谷津環境の整備・維持管理	○※2	○※2
	人工代替巣の設置	—	○※2
	巣箱の設置	—	○※2
	代替営巣林の整備	○※2	○※2
	コウモリボックスの設置	—	—
	改変区域外の個体の移設・移植	○※2	○※2
	アクセス道路等における側溝の蓋がけや脱出スロープの設置	—	—

注 1 ○：環境保全措置・事後調査を実施した項目 —：当該年度未実施

※1 動植物への影響をかんがみ、埋蔵文化財調査等も工事と同様の扱いとして調整を実施。

※2 生態系の環境保全措置・事後調査は、動物又は植物と兼ねる。

2.1. 大気質

大気質に係る事後調査（工事中の調査）の結果の概要を以下に示した。

(1) 造成等の施工及び建設機械の稼働による粉じん

表 2.1-1 大気質に係る事後調査の結果の概要

事後調査を行うこととした理由	事後調査結果の概要
予測の結果、造成等の施工及び建設機械の稼働に伴う粉じんについては、予測の不確実性は小さいが、敷地境界における予測結果が評価の目安とした参考値(10t/km ² /月)を上回っている地点があることから、事後調査を実施する。	【2025 年度】 降下ばいじん調査結果は、表 2.1-2 に示すとおりである。2025 年度調査期間中の降下ばいじん量の範囲は、一般環境調査地点で 0.6～8.2t/km²/月、沿道環境調査地点では、1.2～8.0t/km²/月であった。また期間中の最大値は、一般環境調査地点では春季調査時における T-3 地点の 8.2t/km²/月、沿道環境調査地点では冬季調査時における T-14a 地点の 8.0t/km²/月であった。 T-3 地点は、過年度において、一般環境調査地点のうち最大の降下ばいじん量を観測することが多く、今年度も同様であった。試料の状況も、過年度と同様に、土粒子に加え、桜の花弁や虫など、自然由来の夾雑物が目立っており、周囲が林と林地に囲まれていることが要因と考えられた。 T-14a 地点では、沿道環境調査の他の地点と比較し、やや高い値を示していた。引き続き調査を継続する中で、調査結果の傾向把握に努める。

表 2.1-2 降下ばいじん調査結果

調査項目	調査地点名		調査時期				参考値	
			2025年度					
			春季	夏季	秋季	冬季		
降下ばいじん (t/km ² /月)	一般環境	T-2	小泉（小泉共同利用施設）	3.2	5.5	5.1	2.2	10t/km ² /月 以下
		T-3	大室（竜面集会所）	8.2	6.7	2.1	2.5	
		T-5a ^{※1}	多古（つつじが丘集会所）		4.4	4.6	3.2	
		T-6a ^{※2}	多古（多古町用地）			1.4	2.1	
		T-7b ^{※3}	菱田（NAA用地）	4.1	0.6	2.0	1.9	
		T-8	大里（NAA用地）	2.7	0.7	1.0	1.7	
		T-12a ^{※4}	菱田（辺田公会堂→NAA用地）	3.1	0.8	2.4	4.3	
		T-25a ^{※5}	B滑走路北局（NAA用地内）	3.4	2.5	1.9	2.4	
	沿道環境	T-13	大室（県道115号線）	4.2	1.7	3.8	2.4	
		T-14a ^{※6}	十余三（東）（国道51号）	4.1	1.2	1.5	8.0	
		T-15a ^{※7}	十余三（西）（国道51号）	5.2	1.5	2.1	3.5	
		T-20	菱田（県道106号線）	4.7	1.6	2.4	4.1	
		T-22	喜多（国道296号）	5.6	1.6	1.3	2.5	
		T-23a ^{※8}	大里（国道296号）	3.5	1.2	2.5	4.0	

（注）降下ばいじんの参考値 10t/km²/月以下は、平成 5 年度から平成 9 年度に全国の一般局で測定された降下ばいじん量のデータから上位 2%を除外して得られた値である。

※1:2025 年夏季より、調査地点の都合から、調査地点を T-5 から T-5a に変更した。

※2:2025 年秋季より、調査地点の都合から、調査地点を T-6 から T-6a に変更した。

※3:2022 年冬季より、芝山町都市計画マスタープランにおいて新規居住地検討ゾーンに含まれており、継続的に調査を実施することが難しいと見込まれることから、調査地点を T-7b に変更した。

※4:2025 年冬季より、空港工事に伴い、当該地の使用が難しくなったことから、調査地点を T-12 から T-12a に変更した。

※5:2024 年夏季より、埋蔵文化財調査に伴い機器設置が難しくなったことから、調査地点を T-25 から T-25a に変更した。

※6:2022 年夏季より、環境影響評価時に使用した土地が他の理由で使用中とのことから、調査地点を T-14a に変更した。

※7:2022 年秋季より、調査地点が他工事の工事エリアになることから、調査地点を T-15 から T-15a に変更した。

※8:2021 年秋季より、調査地点の都合から、調査地点を T-23a に変更した。

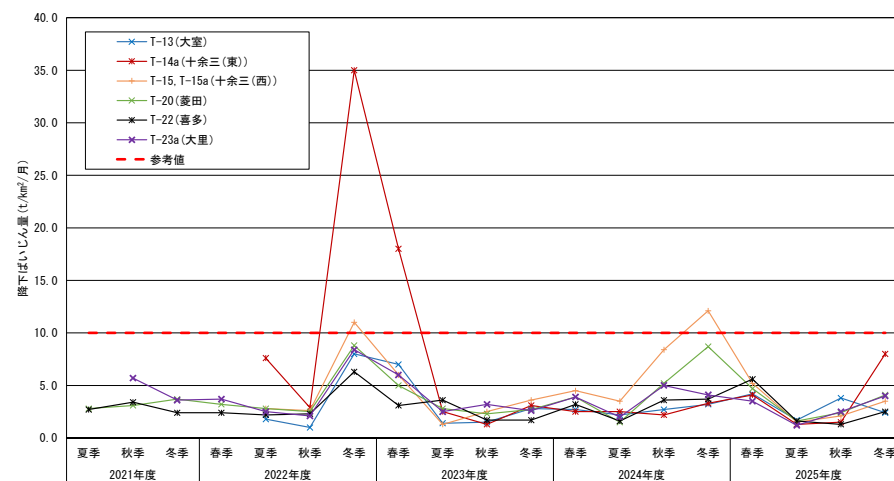
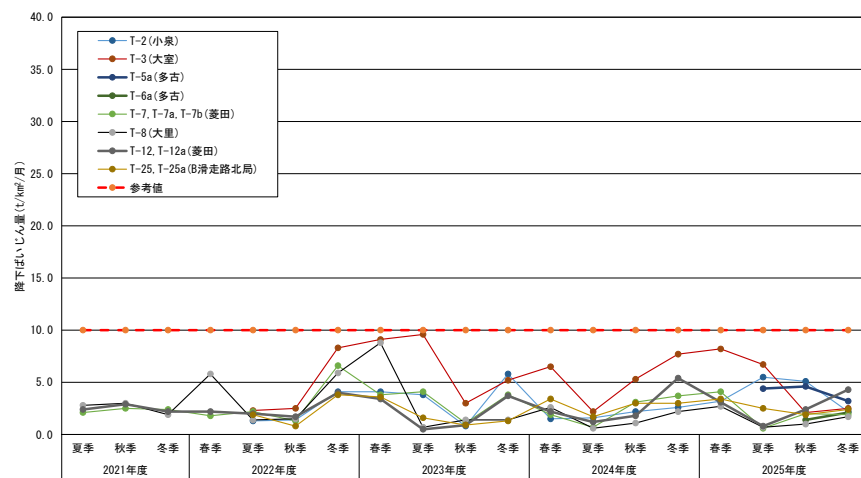


図 2-1 降下ばいじん調査結果（一般環境）（左）と降下ばいじん調査結果（沿道環境）（右）

2.2. 水文環境

水文環境に係る事後調査（工事中の調査）の結果の概要を以下に示した。

(1) 河川流量

表 2.2-1 水文環境に係る事後調査の結果の概要

事後調査を行うこととした理由	事後調査結果の概要
予測の結果、地下水位及び周辺河川の流量に変化はないものの、環境保全措置の雨水浸透対策などの効果に不確実性があるため、事後調査を実施する。	【2025 年度】 施工中の調査として、2021 年度から引き続き河川流量・河川水位調査を実施した。 施工前及び施工後の調査結果と比較できる 1 年間の資料を得た。

(2) 地下水位

表 2.2-2 水文環境に係る事後調査の結果の概要

事後調査を行うこととした理由	事後調査結果の概要
予測の結果、地下水位及び周辺河川の流量に変化はないものの、環境保全措置の雨水浸透対策などの効果に不確実性があるため、事後調査を実施する。	【2025 年度】 施工中の調査として、2021 年度から引き続き地下水位調査を実施した。 施工前及び施工後の調査結果と比較するための 1 年間の資料を得た。

(3) 湧水

表 2.2-3 水文環境に係る事後調査の結果の概要

事後調査を行うこととした理由	事後調査結果の概要
予測の結果、地下水位及び周辺河川の流量に変化はないものの、環境保全措置の雨水浸透対策などの効果に不確実性があるため、事後調査を実施する。	【2025 年度】 施工中の調査として、2021 年度から引き続き湧水調査を実施した。 施工前及び施工後の調査結果と比較するための 1 年間の資料を得た。

表 2.2-4 河川流量調査結果（2021 年 4 月～2026 年 1 月）

水系		尾羽根川水系	荒海川水系	取香川水系	高谷川水系	多古橋川水系
地点No.		No.1	No.3	No.7	No.13	No.16
		流量(m ³ /s)	流量(m ³ /s)	流量(m ³ /s)	流量(m ³ /s)	流量(m ³ /s)
評価書	夏季調査(2016年8月)	0.114	0.052	0.368	0.551	0.357
	秋季調査(2016年11月)	0.124	0.069	0.239	0.670	0.454
	冬季調査(2017年1月)	0.093	0.057	0.215	0.808	0.400
	春季調査(2017年5月)	0.116	0.063	0.187	0.920	0.280
事後調査	春季調査(2021年4月)	0.121	0.035	0.214	0.561	0.230
	夏季調査(2021年7月)	0.284	0.086	0.388	0.878	0.401
	秋季調査(2021年10月)	0.127	0.056	0.241	0.853	0.472
	冬季調査(2022年1月)	0.150	0.074	0.225	0.709	0.417
	春季調査(2022年4月)	0.108	0.040	0.195	0.668	0.198
	夏季調査(2022年7月)	0.182	0.054	0.165	0.675	0.260
	秋季調査(2022年10月)	0.086	0.047	0.202	0.579	0.296
	冬季調査(2023年1月)	0.097	0.047	0.251	0.763	0.337
	春季調査(2023年4月)	0.098	0.018	0.135	0.477	0.159
	夏季調査(2023年8月)	0.069	0.050	0.064	0.327	0.225
	秋季調査(2023年10月)	0.091	0.027	0.248	0.586	0.293
	冬季調査(2024年1月)	0.077	0.028	0.171	0.489	0.243
	春季調査(2024年4月)	0.144	0.024	0.343	0.661	0.389
	夏季調査(2024年7月)	0.203	0.078	0.512	0.788	0.285
	秋季調査(2024年10月)	0.109	0.034	0.363	0.506	1.062
	冬季調査(2025年1月)	0.114	0.045	0.170	0.435	0.247
	春季調査(2025年4月)	0.141	0.023	0.229	0.616	0.303
	夏季調査(2025年7月)	0.241	0.060	0.158	0.507	0.267
	秋季調査(2025年10月)	0.071	0.024	0.101	0.390	0.206
	冬季調査(2026年1月)	0.030	0.012	0.118	0.293	0.090

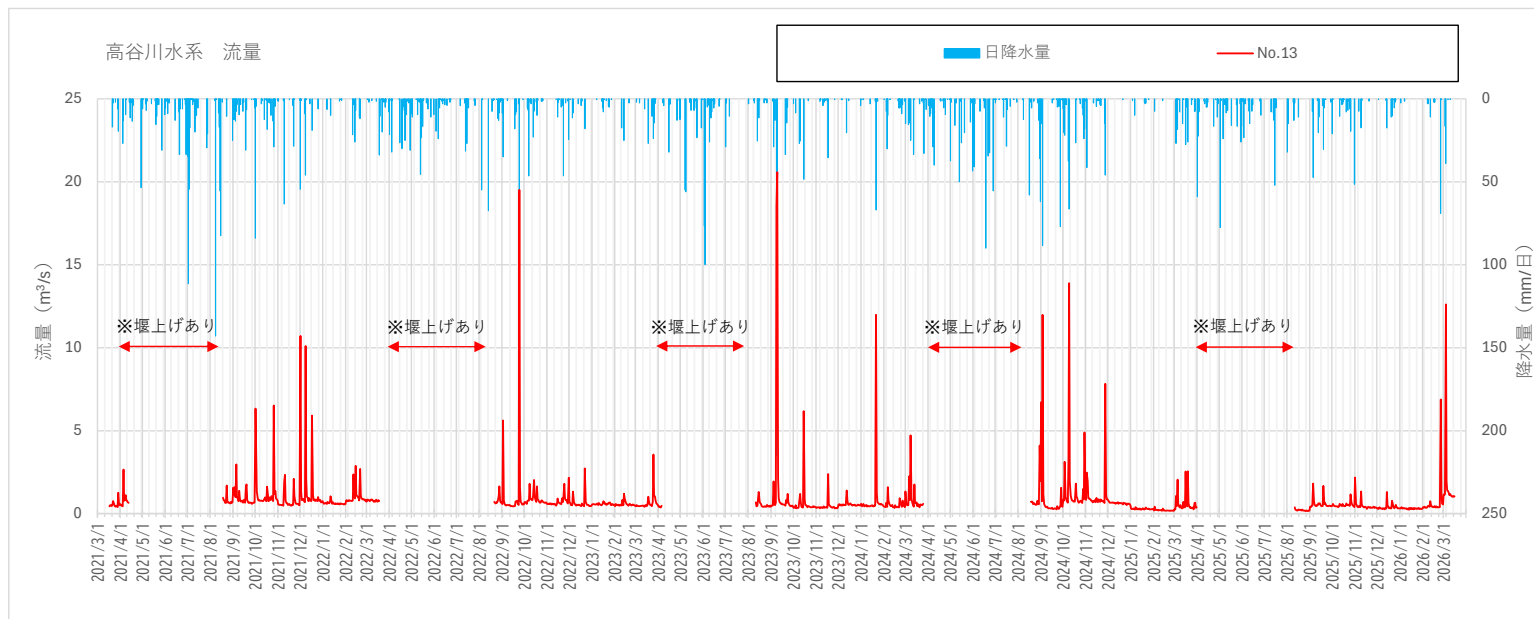


図 2-2 河川流量調査結果 (2021 年 3 月～2026 年 3 月：高谷川)

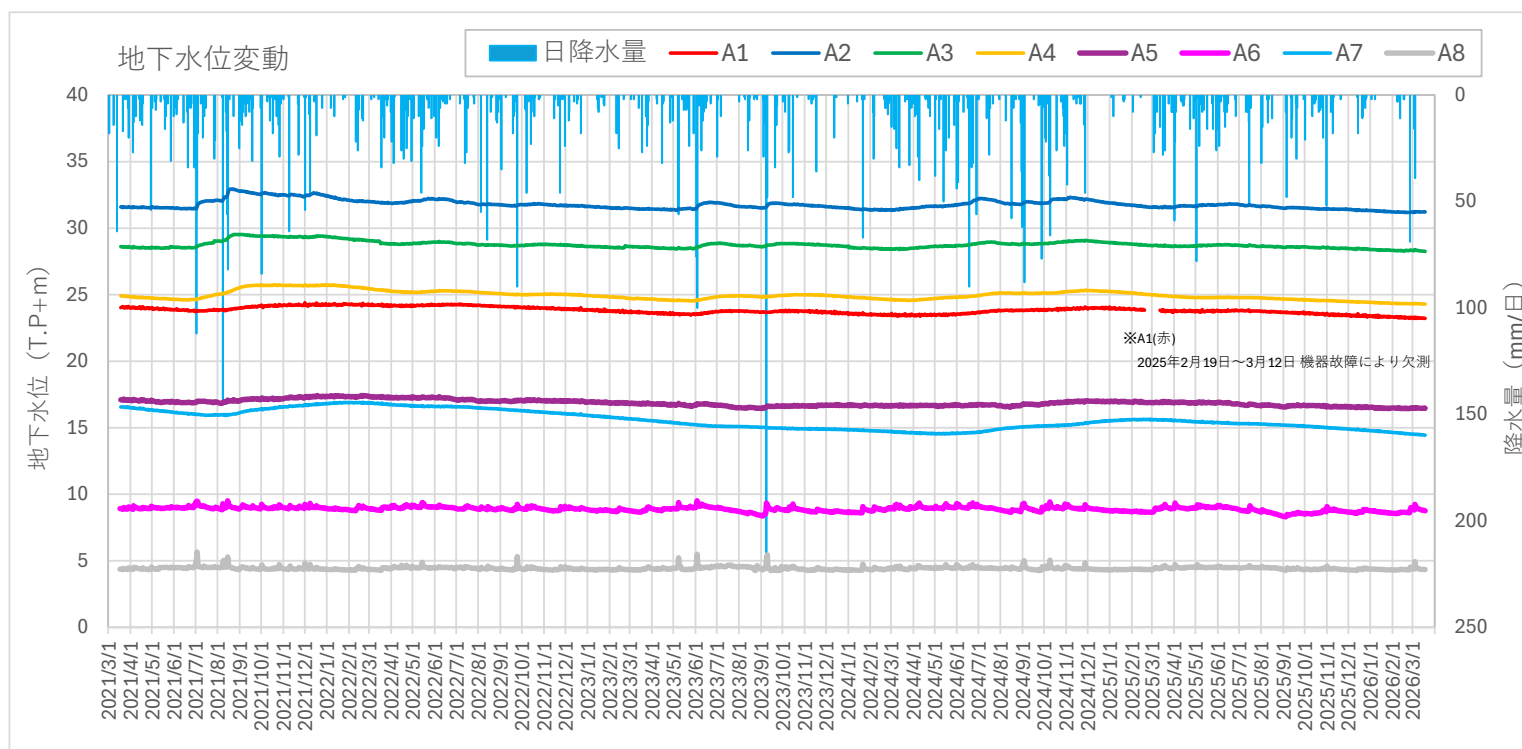


図 2-3 地下水位調査結果 (2021 年 3 月～2026 年 3 月)

2.3. 動物

動物に係る環境保全措置の実施状況と事後調査の結果の概要は以下に示すとおりである。

(1) 工事工程の調整

2025 年度は、オオタカ・サシバへの環境改変による影響を確認し、工事工程の調整を行った。また、工事による繁殖への影響が生じていないかを確認するため、オオタカ・サシバの繁殖状況の確認を行った。

表 2.3-1 評価書の記載事項(工事工程の調整)

環境保全措置	環境保全措置の内容	工事工程を調整し繁殖期を避けて伐採や施工を開始する。
	環境保全措置の効果	保全対象種への直接的な影響を避け、工事の影響を低減できる。また、工事騒音等への馴化を促し、オオタカ、サシバの繁殖への影響を低減できる。
事後調査	行うこととした理由	本措置は工事の実施中においてその内容をより詳細なものにする必要があり、効果の不確実性もあるため事後調査を実施する。
	調査内容	オオタカ、サシバの繁殖状況のモニタリング調査（必要に応じて映像を用いた巣内監視）
	評価方法	繁殖成否、巣立ちヒナ数及びその経年変化による評価、予測結果との対比による評価

表 2.3-2 環境保全措置の実施状況と事後調査の結果の概要（工事工程の調整）

対象種	環境保全措置の実施状況	事後調査結果の概要
オオタカ サシバ	【2025 年度】 2025 年度は、2026 年 1 月時点の埋蔵文化財調査計画において 2026 年繁殖シーズンにおけるサシバの繁殖への影響が懸念される作業があったため、繁殖期前から伐採等作業に着手する方向で調整した。	【2025 年度】 工事による繁殖への影響が生じていないかを確認するため、オオタカ・サシバの繁殖状況の確認を行った。2025 年繁殖シーズンまでの繁殖状況の経年変化は、【参考①】図 2-4～図 2-5 に示すとおりである。 (オオタカ) 2025 年繁殖シーズンは、工事影響範囲内で繁殖が確認された営巣地が前年と同様に 1 営巣地であり、その営巣地での繁殖成功を確認した。なお、引き続き定着個体が確認された営巣地もあり、巣立ちヒナ数の減少については工事影響範囲外においても同様の傾向が確認されており、工事影響以外の要因も考えられる。 (サシバ) 2025 年繁殖シーズンの工事影響範囲内での繁殖成功率は 59%と、2023・2024 年の 75%より低下した。また、巣立ちヒナ数も前年比で減少している。ただし、繁殖成功率は工事影響範囲内と外で大きな差はないことから、工事の直接的な影響ではなく、放棄水田の増加に伴う、餌場環境の減少によるものと考えられる。

【参考①】

表 2.3-3 工事影響範囲内及び調査地域の繁殖成績の経年変化（オオタカ）

調査範囲	項目	環境影響評価時の調査結果				環境影響評価後の調査結果					
		2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
の工事影響範囲内	繁殖数（ペア）	5	4	6	4	4	4	4	2	1	1
	繁殖成功率	60%	75%	50%	75%	50%	75%	100%	50%	0%	100%
	巣立ちヒナ数合計（羽）	5	5	3	3	2	4	9	1	0	1
	巣立ちヒナ数/繁殖成功巣	1.7(5/3)	1.7(5/3)	1.0(3/3)	1.0(3/3)	1.0(2/2)	1.3(4/3)	2.3(9/4)	1.0(1/1)	0(0/0)	1.0(1/1)
	巣立ちヒナ数/繁殖巣	1.0(5/5)	1.3(5/4)	0.5(3/6)	0.8(3/4)	0.5(2/4)	1.0(4/4)	2.3(9/4)	0.5(1/2)	0(0/1)	1.0(1/1)
調査地域の繁殖成績	繁殖数（ペア）	12	10	11	12	9	14	14	12	7	8
	繁殖成功率	83%	70%	55%	75%	67%	64%	79%	58%	57%	75%
	巣立ちヒナ数合計（羽）	15	10	9	12	9	16	26	10	5	9
	巣立ちヒナ数/繁殖成功巣	1.5(15/10)	1.4(10/7)	1.5(9/6)	1.3(12/9)	1.5(9/6)	1.8(16/9)	2.4(26/11)	1.4(10/7)	1.3(5/4)	1.5(9/6)
	巣立ちヒナ数/繁殖巣	1.3(15/12)	1(10/10)	0.8(9/11)	1(12/12)	1(9/9)	1.1(16/14)	1.9(26/14)	0.8(10/12)	0.7(5/7)	1.1(9/8)

※2018 年、2019 年調査は 2014 年～2017 年、2020 年～2025 年と調査内容が異なるため、記載していない。

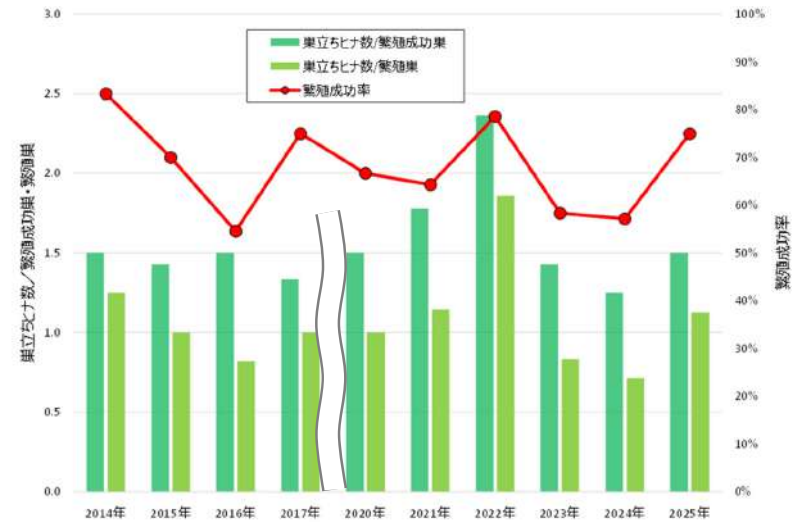


図 2-4 工事影響範囲内（左）及び調査地域（右）の繁殖成績の経年変化（オオタカ）

表 2.3-4 工事影響範囲内及び調査地域の繁殖成績の経年変化（サシバ）

調査範囲	項目	環境影響評価時の調査結果			環境影響評価後の調査結果					
		2014 年	2016 年	2017 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
工事影響範囲内 の繁殖成績	繁殖数（ペア）	5	9	6	7	14	17	16	12	17
	繁殖成功率	40%	56%	50%	100%	50%	59%	75%	75%	59%
	巣立ちヒナ数合計（羽）	4	5	5	10	13	18	18	16	14
	巣立ちヒナ数/繁殖成功巣	2.0 (4/2)	1.0 (5/5)	1.7 (5/3)	1.4 (10/7)	1.9 (13/7)	1.8 (18/10)	1.5 (18/12)	1.8 (16/9)	1.4 (14/10)
	巣立ちヒナ数/繁殖巣	0.8 (4/5)	0.6 (5/9)	0.8 (5/6)	1.4 (10/7)	0.9 (13/14)	1.1 (18/17)	1.1 (18/16)	1.3 (16/12)	0.8 (14/17)
調査地域の 繁殖成績	繁殖数（ペア）	22	36	29	29	50	68	59	51	61
	繁殖成功率	59%	67%	69%	72%	64%	65%	68%	67%	51%
	巣立ちヒナ数合計（羽）	22	35	34	30	49	65	56	59	45
	巣立ちヒナ数/繁殖成功巣	1.7 (22/13)	1.5 (35/24)	1.7 (34/20)	1.4 (30/21)	1.5 (49/32)	1.5 (65/44)	1.4 (56/40)	1.7 (59/34)	1.5 (45/31)
	巣立ちヒナ数/繁殖巣	1 (22/22)	1 (35/36)	1.2 (34/29)	1 (30/29)	1 (49/50)	1 (65/68)	0.9 (56/59)	1.2 (59/51)	0.7 (45/61)

※2015 年は欠測。2018 年、2019 年調査は 2014 年～2017 年、2020 年～2025 年と調査内容が異なるため、記載していない。

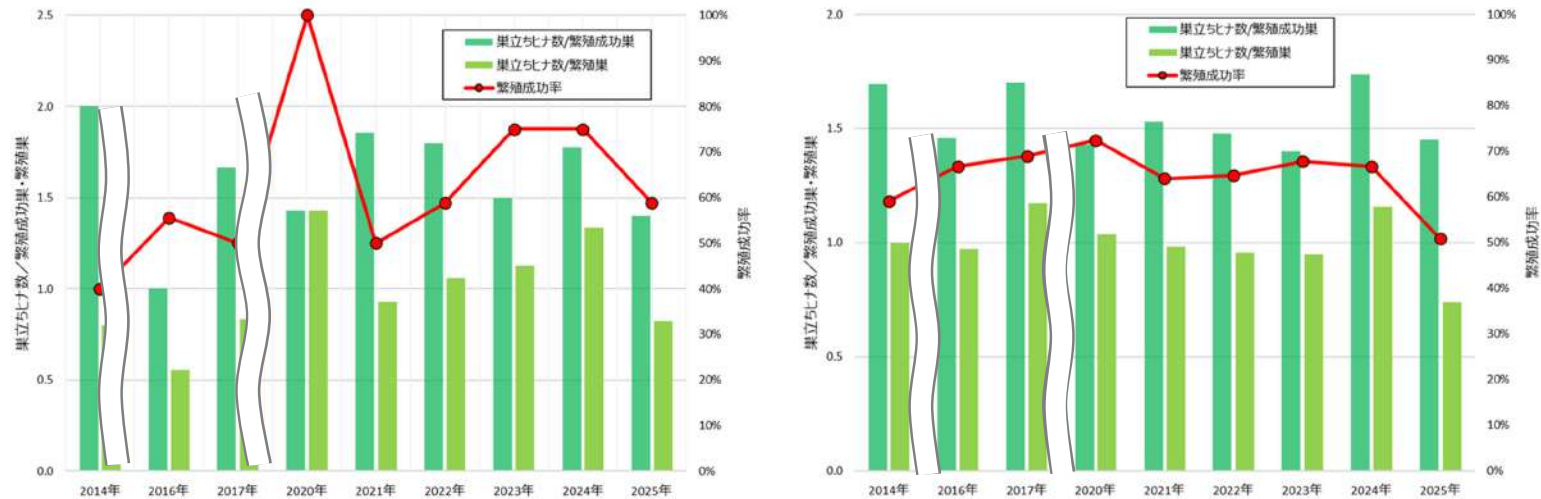


図 2-5 工事影響範囲内(左)及び調査地域(右)の繁殖成績の経年変化（サシバ）

(2) 人工代替巣の設置、代替営巣林の整備

2025 年度は、2020 年～2022 年繁殖シーズンに実施した「人工代替巣設置」及び「代替営巣林の整備（オオタカのみ）」の環境保全措置の効果を確認するため、事後調査を実施した。

表 2.3-5 評価書の記載事項（人工代替巣の設置）

環境保全措置	内容	事前に適地選定を行い、オオタカ・サシバの巣を人工的に製作・設置する。
	効果	消失する両種の営巣地を代償できる。
事後調査	行うこととした理由	本措置は知見が不十分であり、効果の不確実性があるため事後調査を実施する。
	調査内容	オオタカ、サシバの繁殖状況のモニタリング調査（必要に応じて映像を用いた巣内観察）
	評価方法	利用の有無、繁殖成否、巣立ちヒナ数及びその経年変化による評価、予測結果との対比による評価

表 2.3-6 評価書の記載事項（代替営巣林の整備）

環境保全措置	内容	人工代替巣を設置した樹林において、間伐、除伐等によりオオタカの繁殖生態に応じた林内環境を創出する。
	効果	消失する営巣地を代償できる。
事後調査	行うこととした理由	本措置は知見が不十分であり、効果の不確実性があるため事後調査を実施する。
	調査内容	オオタカの繁殖状況のモニタリング調査（必要に応じて映像を用いた巣内観察を実施※）
	評価方法	利用の有無、繁殖成否、巣立ちヒナ数及びその経年変化による評価、予測結果との対比による評価

※広域定点調査、営巣場所調査等に加え、映像を用いた巣内観察をアセス時から追加

1) オオタカ

表 2.3-7 環境保全措置の実施状況と事後調査の結果の概要(人工代替巣の設置・代替営巣林の整備：オオタカ)

対象種	環境保全措置の実施状況	事後調査結果の概要																				
オオタカ	【2025 年度】 2025 年度は新たな代替巣は設置していない。 なお、代替巣 A, B については、設置後 5 シーズン（2021 年～2025 年）に渡り繁殖利用がなかったため、2024 年度業務での検討を踏まえ、代替巣 B のみ人工代替巣の移設を行った。 【2024 年度以前】 下表のとおり 2021 年度までに環境保全措置は実施済みである。 （設置状況の概要） <table><tr><td>設置年度</td><td colspan="2">2020 年度</td><td colspan="2">2021 年度</td></tr><tr><td>設置場所</td><td colspan="2">成田市</td><td colspan="2">多古町</td></tr><tr><td>No.</td><td>代替巣 A</td><td>代替巣 B</td><td>代替巣 C</td><td>代替巣 D</td></tr><tr><td>設置日</td><td>2020 年 11 月 24 日</td><td>2020 年 11 月 25 日 ※2025 年 12 月 16 日移設</td><td>2021 年 11 月 30 日</td><td>2021 年 11 月 29 日</td></tr></table> 注）代替巣設置のタイミングで代替営巣林の整備を実施。	設置年度	2020 年度		2021 年度		設置場所	成田市		多古町		No.	代替巣 A	代替巣 B	代替巣 C	代替巣 D	設置日	2020 年 11 月 24 日	2020 年 11 月 25 日 ※2025 年 12 月 16 日移設	2021 年 11 月 30 日	2021 年 11 月 29 日	【2025 年度】 2020 年度・2021 年度に設置した 4 箇所の代替巣 A～D について、映像を用いた巣内観察によるオオタカの繁殖状況のモニタリングを実施した。 調査の結果、代替巣 D においてオオタカ幼鳥の飛来が確認された以外に本種の飛来はなく、繁殖利用はされなかった。 その他オオタカ以外では、代替巣 C においてノスリが繁殖し、幼鳥の巣立ちが確認された。代替巣 B、C ではフクロウの飛来を 3 回確認した。 また、非繁殖期には利用向上の取組として代替巣のメンテナンスを実施した。 次年度以降も対象種の飛来状況を引き続き確認していく。今後対象種による利用が確認されない場合は、代替巣の設置位置の変更等、対応を検討する。
	設置年度	2020 年度		2021 年度																		
	設置場所	成田市		多古町																		
	No.	代替巣 A	代替巣 B	代替巣 C	代替巣 D																	
	設置日	2020 年 11 月 24 日	2020 年 11 月 25 日 ※2025 年 12 月 16 日移設	2021 年 11 月 30 日	2021 年 11 月 29 日																	
																						
代替巣 D：オオタカ幼鳥		代替巣 C：ノスリ繁殖																				
オオタカ代替巣の確認映像（飛来の様子）																						

2) サシバ

表 2.3-8 環境保全措置の実施状況と事後調査の結果の概要(人工代替巣の設置：サシバ)

対象種	環境保全措置の実施状況	事後調査結果の概要																								
サシバ	【2025 年度】 2025 年度は実施していない。	【2025 年度】 2021 年度・2022 年度に設置した 8 箇所の代替巣 A～I（B は撤去済）について、映像を用いた巣内観察によるサシバの繁殖状況のモニタリングを実施した。 調査の結果、代替巣 C、G においてサシバが断続的に巣材の搬入や巣を整えるのが確認されたが、いずれもその後の繁殖利用はなかった。代替巣 E ではサシバの飛来、オオタカ幼鳥がそれぞれ 1 回確認された。その他、代替巣 A においてノスリ、フクロウの飛来が見られたが、その後の繁殖利用はなし。代替巣 G ではツミの飛来が確認されたが、その後の繁殖利用はなかった。 次年度以降も対象種の飛来状況を引き続き確認していく。今後対象種による利用が確認されない場合は、代替巣の設置位置の変更等、対応を検討する。																								
	【2024 年度以前】 下表のとおり 2022 年度までに環境保全措置は実施済みである。																									
	（設置状況の概要）																									
	<table><tr><td>設置年度</td><td colspan="5">2021 年度</td></tr><tr><td>設置場所</td><td colspan="2">多古町</td><td colspan="3">芝山町</td></tr><tr><td>No.</td><td>代替巣 A</td><td>代替巣 B</td><td>代替巣 C</td><td colspan="2">代替巣 D</td></tr><tr><td>設置日</td><td>3 月 24 日</td><td>3 月 23 日</td><td>3 月 24 日</td><td colspan="2">3 月 25 日</td></tr></table>		設置年度	2021 年度					設置場所	多古町		芝山町			No.	代替巣 A	代替巣 B	代替巣 C	代替巣 D		設置日	3 月 24 日	3 月 23 日	3 月 24 日	3 月 25 日	
	設置年度		2021 年度																							
	設置場所		多古町		芝山町																					
	No.		代替巣 A	代替巣 B	代替巣 C	代替巣 D																				
	設置日		3 月 24 日	3 月 23 日	3 月 24 日	3 月 25 日																				
	<table><tr><td>設置年度</td><td colspan="5">2022 年度</td></tr><tr><td>設置場所</td><td colspan="2">芝山町</td><td colspan="3">成田市</td></tr><tr><td>No.</td><td>代替巣 E</td><td>代替巣 F</td><td>代替巣 G</td><td>代替巣 H</td><td>代替巣 I</td></tr><tr><td>設置日</td><td>3 月 22 日</td><td>3 月 23 日</td><td>3 月 27 日</td><td>3 月 27 日</td><td>3 月 28 日</td></tr></table>		設置年度	2022 年度					設置場所	芝山町		成田市			No.	代替巣 E	代替巣 F	代替巣 G	代替巣 H	代替巣 I	設置日	3 月 22 日	3 月 23 日	3 月 27 日	3 月 27 日	3 月 28 日
	設置年度		2022 年度																							
設置場所	芝山町		成田市																							
No.	代替巣 E	代替巣 F	代替巣 G	代替巣 H	代替巣 I																					
設置日	3 月 22 日	3 月 23 日	3 月 27 日	3 月 27 日	3 月 28 日																					

(3) 巣箱の設置

2025 年度は、事後調査として 2021 年度～2022 年度に設置した巣箱の利用状況の確認を行った。

表 2.3-9 評価書の記載事項（巣箱の設置）

環境保全措置	内容	事前に適地選定を行い、フクロウの巣箱を設置する。
	効果	消失する営巣地を代償できる。
事後調査	行うこととした理由	本措置は知見が不十分であり、効果の不確実性があるため事後調査を実施する。
	調査内容	フクロウの繁殖状況モニタリング（必要に応じて映像を用いた巣内観察）
	評価方法	利用の有無、繁殖成否、巣立ちヒナ数及びその経年変化による評価、予測結果との対比による評価

表 2.3-10 環境保全措置の実施状況と事後調査の結果の概要（巣箱の設置）

対象種	環境保全措置の実施状況	事後調査結果の概要																								
フクロウ	【2025 年度】 2025 年度は実施していない。	【2025 年度】 2021 年・2022 年に設置した 5 箇所の巣箱 A～E について、巣箱の利用状況を確認した。 確認の結果、2021 年度に設置した 2 箇所、2022 年度に設置した 3 箇所の計 5 箇所のうち、2 箇所（A, B）の巣箱でフクロウの繁殖利用を確認した。																								
	【2024 年度以前】 下表のとおり 2022 年度までに環境保全措置は実施済みである。																									
	（設置状況の概要）																									
	<table><tr><td>設置年度</td><td colspan="2">2021 年度</td><td colspan="3">2022 年度</td></tr><tr><td>設置場所</td><td colspan="2">芝山町</td><td colspan="2">成田市</td><td>芝山町</td></tr><tr><td>No.</td><td>巣箱 A</td><td>巣箱 B</td><td>巣箱 C</td><td>巣箱 D</td><td>巣箱 E</td></tr><tr><td>設置日</td><td>11 月 19 日</td><td>11 月 19 日</td><td>11月10日</td><td>11月10日</td><td>11月10日</td></tr></table>		設置年度	2021 年度		2022 年度			設置場所	芝山町		成田市		芝山町	No.	巣箱 A	巣箱 B	巣箱 C	巣箱 D	巣箱 E	設置日	11 月 19 日	11 月 19 日	11月10日	11月10日	11月10日
	設置年度		2021 年度		2022 年度																					
設置場所	芝山町		成田市		芝山町																					
No.	巣箱 A	巣箱 B	巣箱 C	巣箱 D	巣箱 E																					
設置日	11 月 19 日	11 月 19 日	11月10日	11月10日	11月10日																					
																										
	フクロウ巣箱設置・獣害対策実施写真（フクロウ巣箱 D）																									

	
巣箱A 撮影年月：2025年3月	巣箱B 撮影年月：2025 年 6 月

巣箱内の状況

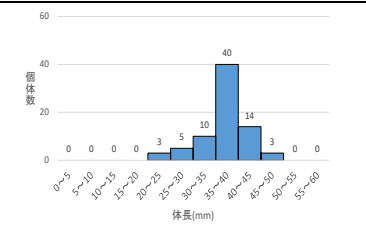
(4) ホトケドジョウの生息環境保全

2025 年度は、2024 年度に実施した環境整備箇所の維持管理及び 2024 年度から実施しているホトケドジョウの生息環境保全の効果を確認するため、事後調査を実施した。

表 2.3-11 評価書の記載事項(ホトケドジョウの生息環境保全)

環境保全措置	内容	ホトケドジョウの繁殖地である水路及びその水源となる湧水を保護する。
	効果	繁殖への影響を回避できる。
事後調査	行うこととした理由	ホトケドジョウ及びその繁殖地への影響の回避を目的として繁殖地である水路及びその水源となる湧水を保護するものの、本措置は工事实施においてその内容をより詳細なものにする必要があるため、事後調査を実施する。
	調査内容	魚類調査
	評価方法	繁殖状況（当歳魚の生息状況）、推定個体数の経年変化による評価、予測結果との対比による評価

表 2.3-12 環境保全措置の実施状況と事後調査の結果の概要（ホトケドジョウの生息環境保全）

対象種	環境保全措置の実施状況	事後調査結果の概要
動物	【2025 年度】 2024 年度にホトケドジョウの生息環境として整備した土水路及び土水路と連結した湿田環境の維持管理を実施した。土水路については泥上げ、周辺の落葉の除去、草刈りを行い、水路環境の維持を図った。また、2024 年度に創出した湿田環境の一部の水深が浅く、水が溜まりにくくなっていたことから、該当箇所の湿田環境の掘り下げを実施し、湿田環境の水深の維持を図った。   整備後状況（土水路） 撮影年月：2026年4月 整備後状況（湿田環境掘り下げ） 撮影年月：2026年4月 (参考)ホトケドジョウ生息環境の整備状況	【2025 年度】 2024 年度以降実施している環境保全措置の効果を確認するため繁殖状況確認と個体数推定を実施した。 繁殖状況について、確認されたホトケドジョウの体長組成のピークは 2025 年 6 月に 25～30mm、9 月に 35～40mm、2026 年 1 月に 40～45mm であった。ホトケドジョウの成体は 40～60mm 程のため、春季以降に孵化した個体は順調に成長していると考えられる。 推定個体数は 2025 年 9 月時点で 758 個体であった。2024 年 9 月調査では 594 個体であったことから推定個体数は増加しており、ホトケドジョウの生息環境は現時点では良好に保たれていると考えられる。   ホトケドジョウ成魚 撮影年月：2025年9月 ホトケドジョウの体長組成 (2025年9月)

(5) 谷津環境の整備・維持管理

2025 年度は、2022 年度にグリーンポート エコ・アグリパーク内で試験的に整備を実施した湿田（谷部）を対象に維持管理を実施した。

表 2.3-13 評価書の記載事項（谷津環境の整備・維持管理）

環境保全 措置	内容	空港区域外に既に確保している谷津環境（グリーンポート エコ・アグリパーク、芝山水辺の里、騒音用地）及び強雨時に調整池として活用される谷津環境を整備・維持管理する。
	効果	生息環境としての質を向上させることで、谷津環境に生息する動物への影響を緩和できる。
事後調査	行うこととした理由	谷津環境への影響の低減を目的として谷津機能を維持した調整池の設置を行うものの、本措置は工事の実施中においてその内容をより詳細なものにする必要があるため事後調査を実施する。また、環境の質の向上と新たな環境の創出により失われる生息環境を代償することを目的として上記を含めた谷津環境の整備・維持管理を行うものの、本措置は対象種によっては知見が不十分であり、効果の不確実性があるため事後調査を実施する。
	調査内容	動物相調査、注目種調査（上位性、典型性、特殊性注目種（猛禽類除く））※
	評価方法	動物相、注目種※あるいは指標種の生息状況の経年変化による評価、予測結果との対比による評価

※生態系に係る記載内容

表 2.3-14 環境保全措置の実施状況と事後調査の結果の概要（谷津環境の整備・維持管理）

対象種	環境保全措置の実施状況	事後調査結果の概要
動物	【2025 年度】 2025 年度は、グリーンポート エコ・アグリパークの整備後の環境の維持管理を行った。  整備前状況 撮影年月：2025年9月 整備後状況 撮影年月：2025年9月 谷津環境の整備状況 【2024 年度以前】 2022 年度に、グリーンポート エコ・アグリパークにおいて、谷津環境の整備・維持管理を行った。	【2025 年度】 グリーンポート エコ・アグリパークの谷津上流部において、2022 年度に実施した谷津環境再生試験（谷津再生試行）の効果を確認するため、整備地及び未整備地において、昆虫類、底生動物、両生類及び爬虫類に対する相調査及び注目種調査を行った。 （昆虫類） 早春季、春季、夏季及び秋季における現地調査の結果、整備地では合計 88 科 176 種（重要種 7 種、保全対象種 1 種）、未整備地では合計 94 科 201 種（重要種 5 種、保全対象種 1 種）の昆虫類が確認された。 （底生動物：昆虫網を除く） 早春季、春季、夏季及び秋季における現地調査の結果、整備地では合計 8 科 9 種（重要種 1 種）、未整備地では合計 8 科 8 種（重要種 1 種）の底生動物が確認された。 （両生類） 春季及び夏季における別項目での現地調査の結果、整備地では合計 3 科 4 種（重要種 4 種、保全対象種 4 種）、未整備地では合計 1 科 1 種（重要種 1 種、保全対象種 1 種）の両生類が確認された。 （爬虫類） 秋季における別項目での現地調査の結果、整備地では確認されなかったが、未整備地において 2 科 2 種（重要種 2 種、保全対象種 2 種）の爬虫類が確認された。

(6) 改変区域外への個体の移設

2025 年度は爬虫類、両生類、昆虫類、陸産貝類及び魚類を対象とし、移設を実施した。また、2022 年度から実施している両生類の移設、2021 年度に実施した爬虫類の移設及び 2021 年度から実施している陸産貝類の移設の環境保全措置の効果を確認するため、事後調査を実施した。

表 2.3-15 評価書の記載事項（改変区域外への個体の移設）

環境保全措置 事後調査	内容	個体や卵塊、幼生等を工事前に改変区域外に移設する。
	効果	爬虫類、両生類、昆虫類、魚類、底生動物、陸産貝類*の重要な種への影響を緩和できる。
	行うこととした理由	施工による個体への直接的な影響の低減と移設先における個体群の存続を目的として個体の移設や生息域外保全を行うものの本措置は対象種によっては知見が不十分であり、効果の不確実性があるため事後調査を実施する。
	評価方法	移設個体の定着状況、推定個体数の経年変化による評価、予測結果との対比による評価

※専門家からの助言、2020 年度環境保全措置実施前調査により環境保全措置対象種としてアセス時から追加

表 2.3-16(1) 環境保全措置の実施状況と事後調査の結果の概要（改変区域外への個体の移設）

対象種	環境保全措置の実施状況	事後調査結果の概要																																														
爬虫類	【2025 年度・2024 年度以前】 爬虫類（ヘビ類）について、MAXENT による生息適地評価を行い、生息適地として評価の高い改変区域外の地点に移設を実施した。2025 年度は 2025 年 6 月に 3 種 4 個体を移設し、2024 年度以前も含めて合計で 5 種 26 個体を移設した。	【2025 年度】 過年度に移設した地点の移設後モニタリング調査の結果、移設を実施した爬虫類のうち、アオダイショウ（3 個体）、ヤマカガシ（1 個体）を確認した。なお、移設は実施していないものの、保全対象種であるシロマダラ（1 個体）も確認した。																																														
	（移設状況の概要）																																															
	<table><tr><th rowspan="2">移設対象種</th><th colspan="4">移設個体数</th><th rowspan="2">合計</th></tr><tr><th>2021 年 6 月</th><th>2021 年 9 月</th><th>2022 年 4 月</th><th>2025 年 6 月</th></tr><tr><td>アオダイショウ</td><td>5</td><td></td><td></td><td>1</td><td>6</td></tr><tr><td>シマヘビ</td><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>ヒバカリ</td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>1</td><td>5</td></tr><tr><td>ヤマカガシ</td><td>4</td><td>4</td><td>1</td><td>2</td><td>11</td></tr><tr><td>ニホンマムシ</td><td>2</td><td></td><td>1</td><td></td><td>3</td></tr><tr><td>5 種 計</td><td>13</td><td>7</td><td>2</td><td>4</td><td>26</td></tr></table>	移設対象種	移設個体数				合計	2021 年 6 月	2021 年 9 月	2022 年 4 月	2025 年 6 月	アオダイショウ	5			1	6	シマヘビ		1			1	ヒバカリ	2	2		1	5	ヤマカガシ	4	4	1	2	11	ニホンマムシ	2		1		3	5 種 計	13	7	2	4	26	
	移設対象種		移設個体数					合計																																								
		2021 年 6 月	2021 年 9 月	2022 年 4 月	2025 年 6 月																																											
アオダイショウ	5			1	6																																											
シマヘビ		1			1																																											
ヒバカリ	2	2		1	5																																											
ヤマカガシ	4	4	1	2	11																																											
ニホンマムシ	2		1		3																																											
5 種 計	13	7	2	4	26																																											
		 アオダイショウ 撮影年月：2025年9月  ヤマカガシ 撮影年月：2025 年 9 月																																														
		事後調査での確認状況（爬虫類の移設）																																														

表 2.3-16(2) 環境保全措置の実施状況と事後調査の結果の概要（改変区域外への個体の移設）

対象種	環境保全措置の実施状況	事後調査結果の概要																																																																												
両生類	【2025 年度】 両生類（カエル類）について、卵塊、幼生等を改変区域外に移設した。全ての保全対象種（アズマヒキガエル、ニホンアカガエル、トウキョウダルマガエル、シュレーゲルアオガエル）について移設を実施した。 （移設状況の概要 2025 年 4 月、5 月、9 月） <table><tr><th rowspan="2">移設対象種</th><th colspan="3">移設実績</th></tr><tr><th>卵塊</th><th>幼生</th><th>成体</th></tr><tr><td>アズマヒキガエル</td><td></td><td>6,100</td><td></td></tr><tr><td>ニホンアカガエル</td><td>12</td><td>490</td><td></td></tr><tr><td>トウキョウダルマガエル</td><td></td><td></td><td>111</td></tr><tr><td>シュレーゲルアオガエル</td><td>31</td><td>380</td><td>13</td></tr></table> 単位：卵塊（個）、幼生（個体）、成体（個体） （移設状況の概要 2026 年 3 月） <table><tr><th rowspan="2">移設対象種</th><th colspan="3">移設実績</th></tr><tr><th>卵塊</th><th>幼生</th><th>成体</th></tr><tr><td>アズマヒキガエル</td><td>21</td><td>4,400</td><td></td></tr><tr><td>ニホンアカガエル</td><td>67</td><td>4,900</td><td>2</td></tr></table> 単位：卵塊（個）、幼生（個体）、成体（個体）   トウキョウダルマガエル 成体 撮影年月：2025年9月 シュレーゲルアオガエル 成体 撮影年月：2025年5月 移設個体等の状況（両生類の移設）	移設対象種	移設実績			卵塊	幼生	成体	アズマヒキガエル		6,100		ニホンアカガエル	12	490		トウキョウダルマガエル			111	シュレーゲルアオガエル	31	380	13	移設対象種	移設実績			卵塊	幼生	成体	アズマヒキガエル	21	4,400		ニホンアカガエル	67	4,900	2	【2025 年度】 移設を実施した全ての種類の両生類（カエル類）の生息が確認された。また、全ての種について卵塊もしくは幼生が発見されており、移設先において再生産（繁殖）していることが確認できた。 （事後調査結果の概要 2025 年 4 月、6 月） <table><tr><th rowspan="2">移設対象種</th><th colspan="3">事後調査結果</th></tr><tr><th>卵塊</th><th>幼生</th><th>成体</th></tr><tr><td>アズマヒキガエル</td><td></td><td>70,010</td><td>141</td></tr><tr><td>ニホンアカガエル</td><td>3</td><td>13,541</td><td>304</td></tr><tr><td>トウキョウダルマガエル</td><td></td><td>11</td><td>14</td></tr><tr><td>シュレーゲルアオガエル</td><td>38</td><td>7,082</td><td>185</td></tr></table> （事後調査結果の概要 2026 年 3 月） <table><tr><th rowspan="2">移設対象種</th><th colspan="3">事後調査結果</th></tr><tr><th>卵塊</th><th>幼生</th><th>成体</th></tr><tr><td>アズマヒキガエル</td><td>28</td><td>500</td><td>21</td></tr><tr><td>ニホンアカガエル</td><td>123</td><td>3,840</td><td></td></tr></table>   トウキョウダルマガエル 幼生 撮影年月：2025年6月 シュレーゲルアオガエル 成体 撮影年月：2025年4月 事後調査での確認状況（両生類の移設）	移設対象種	事後調査結果			卵塊	幼生	成体	アズマヒキガエル		70,010	141	ニホンアカガエル	3	13,541	304	トウキョウダルマガエル		11	14	シュレーゲルアオガエル	38	7,082	185	移設対象種	事後調査結果			卵塊	幼生	成体	アズマヒキガエル	28	500	21	ニホンアカガエル	123	3,840	
	移設対象種		移設実績																																																																											
		卵塊	幼生	成体																																																																										
	アズマヒキガエル		6,100																																																																											
	ニホンアカガエル	12	490																																																																											
	トウキョウダルマガエル			111																																																																										
	シュレーゲルアオガエル	31	380	13																																																																										
	移設対象種	移設実績																																																																												
		卵塊	幼生	成体																																																																										
	アズマヒキガエル	21	4,400																																																																											
ニホンアカガエル	67	4,900	2																																																																											
移設対象種	事後調査結果																																																																													
	卵塊	幼生	成体																																																																											
アズマヒキガエル		70,010	141																																																																											
ニホンアカガエル	3	13,541	304																																																																											
トウキョウダルマガエル		11	14																																																																											
シュレーゲルアオガエル	38	7,082	185																																																																											
移設対象種	事後調査結果																																																																													
	卵塊	幼生	成体																																																																											
アズマヒキガエル	28	500	21																																																																											
ニホンアカガエル	123	3,840																																																																												

表 2.3-16(3) 環境保全措置の実施状況と事後調査の結果の概要（改変区域外への個体の移設）

対象種	環境保全措置の実施状況	事後調査結果の概要																
昆虫類 (ホタル類)	【2025 年度】 C 滑走路新設予定区間においてゲンジボタル及びヘイケボタルの成虫の移設作業を行った。 (移設状況の概要 2025 年 6 月) <table><tr><th>移設対象種</th><th>移設実績</th></tr><tr><td>ゲンジボタル</td><td>成虫：♂285♀13</td></tr><tr><td>ヘイケボタル</td><td>成虫：♂139♀46</td></tr></table>   <table><tr><td>移設個体：ゲンジボタル成虫 撮影年月：2025 年 6 月</td><td>移設個体：ヘイケボタル成虫 撮影年月：2025 年 6 月</td></tr></table> 移設個体等の状況（昆虫類の移設）	移設対象種	移設実績	ゲンジボタル	成虫：♂285♀13	ヘイケボタル	成虫：♂139♀46	移設個体：ゲンジボタル成虫 撮影年月：2025 年 6 月	移設個体：ヘイケボタル成虫 撮影年月：2025 年 6 月	【2025 年度】 2024 年度に移設作業を実施した B 滑走路延伸予定区間においてゲンジボタル及びヘイケボタルの成虫の事後調査を行った。事後調査の結果、ゲンジボタルは移設を実施した全ての地域(4 地域)で確認されており、ヘイケボタルは 1 地域を除いて確認されている。 (事後調査の概要 2025 年 6 月) <table><tr><th>移設対象種</th><th>事後調査結果</th></tr><tr><td>ゲンジボタル</td><td>約 230 個体</td></tr><tr><td>ヘイケボタル</td><td>約 40 個体</td></tr></table> 注 1) 夜間目視による個体数把握を実施したため、概数を記載。   <table><tr><td>確認個体：ゲンジボタル成虫 撮影年月：2025 年 6 月</td><td>確認個体：ヘイケボタル成虫 撮影年月：2025 年 6 月</td></tr></table> 移設個体等の状況（昆虫類の移設）	移設対象種	事後調査結果	ゲンジボタル	約 230 個体	ヘイケボタル	約 40 個体	確認個体：ゲンジボタル成虫 撮影年月：2025 年 6 月	確認個体：ヘイケボタル成虫 撮影年月：2025 年 6 月
	移設対象種	移設実績																
	ゲンジボタル	成虫：♂285♀13																
ヘイケボタル	成虫：♂139♀46																	
移設個体：ゲンジボタル成虫 撮影年月：2025 年 6 月	移設個体：ヘイケボタル成虫 撮影年月：2025 年 6 月																	
移設対象種	事後調査結果																	
ゲンジボタル	約 230 個体																	
ヘイケボタル	約 40 個体																	
確認個体：ゲンジボタル成虫 撮影年月：2025 年 6 月	確認個体：ヘイケボタル成虫 撮影年月：2025 年 6 月																	

表 2.3-16(4) 環境保全措置の実施状況と事後調査の結果の概要（改変区域外への個体の移設）

対象種	環境保全措置の実施状況	事後調査結果の概要	
陸産貝類	【2025 年度】 陸産貝類の移設は 2021 年度から段階的に実施している。埋蔵文化財調査の実施に伴い、2025 年 5 月、6 月、11 月に陸産貝類の移設作業を実施した。 2025 年度において、殻径 20 mm 程度の大型種（オオタキコギセル、チュウゼンジギセル）計 32 個体、殻径 2 mm 程度の微小種（ウメムラシタラガイ、コシタカシタラガイ、オオウエキビ）計 22 個体及び過年度確認地点の基質を採集・移設した。	【2025 年度】 2021 年度～2025 年度に移設した地点の移設後モニタリング調査の結果、ベニヤ板トラップの下でチュウゼンジギセル(生貝 8 個体)、ウメムラシタラガイ(生貝 4 個体)、コシタカシタラガイ(生貝 5 個体、死貝 4 個体)、の計 3 種が確認された。なお、ベニヤ板トラップの周辺での確認はされなかった。	
			
	移設個体 チュウゼンジギセル 撮影年月：2025年5月	確認個体 チュウゼンジギセル (生貝：マーキング付き) 撮影年月：2025年9月	確認個体 ウメムラシタラガイ(生貝) 撮影年月：2025年11月
			
		確認個体 コシタカシタラガイ(生貝) 撮影年月：2025年11月	確認個体 コシタカシタラガイ(生貝) 撮影年月：2025年11月
	事後調査での確認状況（陸産貝類の移設）		

表 2.3-16(5) 環境保全措置の実施状況と事後調査の結果の概要（改変区域外への個体の移設）

対象種	環境保全措置の実施状況		事後調査結果の概要											
魚類	【2025 年度】 ミナミメダカ及びホトケドジョウの移設を 2026 年 2 月、3 月に実施した。 2025 年度は 332 個体のミナミメダカ及び 135 個体のホトケドジョウを捕獲し、改変区域外へと移設した。		【2025 年度】 2024 年度に移設作業を実施したミナミメダカの事後調査を行った。目視確認も併せて、ミナミメダカを約 30 個体確認した。うち一部は抱卵個体であったことから、移設個体が移設先で繁殖を行っていることが推察された。											
	（移設状況の概要 2026 年 2 月、3 月）		（事後調査の概要 2025 年 4 月）											
	<table><tr><th>移設対象種</th><th>移設実績</th></tr><tr><td>ミナミメダカ</td><td>332 個体</td></tr><tr><td>ホトケドジョウ</td><td>135 個体</td></tr></table>		移設対象種	移設実績	ミナミメダカ	332 個体	ホトケドジョウ	135 個体	<table><tr><th>移設対象種</th><th>事後調査結果</th></tr><tr><td>ミナミメダカ</td><td>約 30 個体</td></tr></table>		移設対象種	事後調査結果	ミナミメダカ	約 30 個体
	移設対象種	移設実績												
	ミナミメダカ	332 個体												
ホトケドジョウ	135 個体													
移設対象種	事後調査結果													
ミナミメダカ	約 30 個体													
 		 												
ミナミメダカ捕獲個体 撮影年月：2026 年 3 月 ホトケドジョウ捕獲個体 撮影年月：2026 年 3 月		ミナミメダカ確認環境 撮影年月：2025 年 4 月 ミナミメダカ抱卵個体 撮影年月：2025 年 4 月												
移設個体の状況（魚類の移設）														

(7) 生息域外保全

2025 年度はニホンイシガメ及びアカハライモリの捕獲調査を行わず、過年度に捕獲した個体の飼育を継続した。

表 2.3-17 評価書の記載事項（生息域外保全）

環境保全 措置	内容	ニホンイシガメ、アカハライモリの個体の移設の効果の不確実性への保険として生息域外保全を行う。
	効果	個体群の絶滅を回避し、重要な種への影響を緩和できる。
事後調査	行うこととした理由	施工による個体への直接的な影響の低減と移設先における個体群の存続を目的として生息域外保全を行うものの本措置は対象種によっては知見が不十分であり、効果の不確実性があるため事後調査を実施する。
	調査内容	爬虫類調査、両生類調査
	評価方法	移設個体の定着状況、推定個体数の経年変化による評価、予測結果との対比による評価

表 2.3-18(1) 環境保全措置の実施状況と事後調査の結果の概要（生息域外保全）

対象種	環境保全措置の実施状況	事後調査結果の概要
ニホンイシガメ	【2025 年度】 ニホンイシガメは、2018 年度より生息域外保全実施のため捕獲（緊急避難）及び飼育施設での飼育・増殖を実施している。 2025 年度は捕獲を行わなかったが、飼育施設での飼育・増殖を実施した。（【参考②】図 2-6 参照）  ニホンイシガメ成体の飼育状況 撮影年月：2025年10月  ニホンイシガメ増殖個体の飼育状況（陸域） 撮影年月：2025年10月  ニホンイシガメ幼体の飼育状況（水域） 撮影年月：2025年10月  ニホンイシガメ増殖個体 撮影年月：2025年10月 ニホンイシガメの飼育・増殖状況	【2025 年度】 — ※環境保全措置が完了していないため未実施 事後調査については生息域外保全（野生復帰）開始後に実施する。

表 2.3-18(2) 環境保全措置の実施状況と事後調査の結果の概要（生息域外保全）

対象種	環境保全措置の実施状況	事後調査結果の概要
アカハライモリ	【2025 年度】 アカハライモリは、2018 年度より生息域外保全実施のため捕獲及び飼育施設での飼育・増殖（緊急避難）を実施している。 また、2022 年度より試験的に実施している再導入の取り組みにより、捕獲個体のうち 254 個体（2023 年度捕獲個体を含む。）は生息環境を整備した保全エリア内へと放流している。（【参考②】図 2-7 参照）  アカハライモリ飼育状況 撮影年月：2025年6月 アカハライモリ捕獲個体（成体） 撮影年月：2025年6月 アカハライモリの飼育・増殖状況	【2025 年度】 — ※環境保全措置が完了していないため未実施 事後調査については生息域外保全（野生復帰）開始後に実施する。

【参考②】

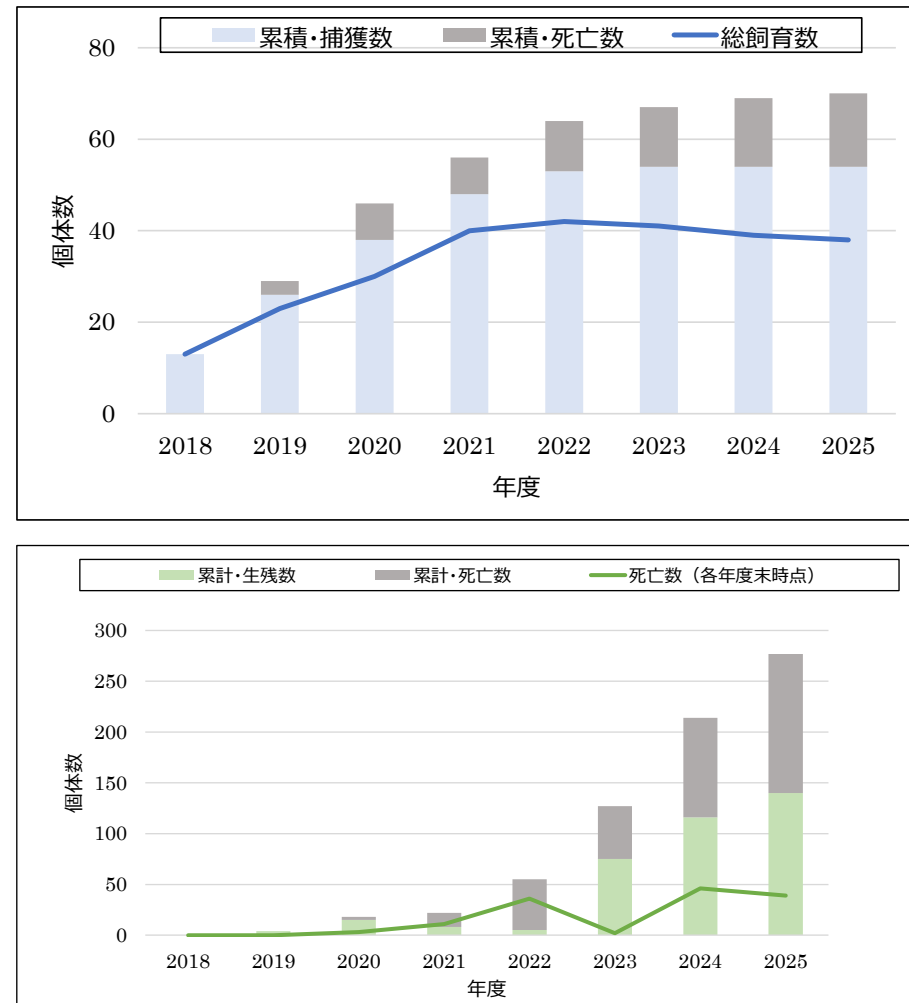


図 2-6 ニホンイシガメの捕獲・飼育状況(上)、ニホンイシガメの飼育下増殖状況(下)

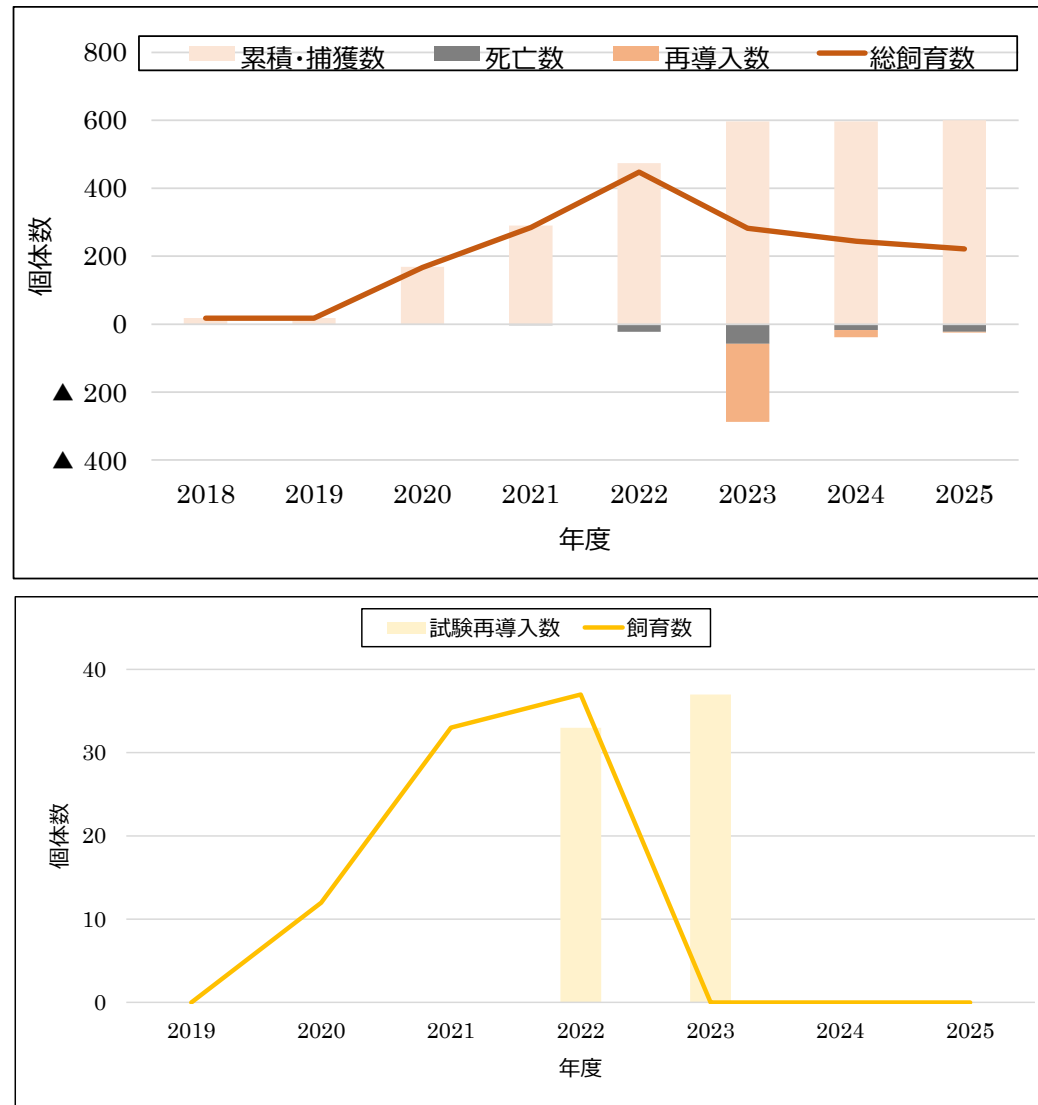


図 2-7 アカハライモリの捕獲・飼育状況(上)、 アカハライモリの飼育下増殖状況(下)

2.4. 植物

植物に係る環境保全措置の実施状況と事後調査の結果の概要は以下に示すとおりである。

(1) 谷津環境の整備・維持管理

2025年度は、2022年度にグリーンポート エコ・アグリパーク内で試験的に整備を実施した湿田（谷部）を対象に維持管理を実施した。

表 2.4-1 評価書の記載事項（谷津環境の整備・維持管理）

環境保全措置	内容	空港区域外に既に確保している谷津環境（グリーンポート エコ・アグリパーク、芝山水辺の里、騒音用地）及び強雨時に調整池として活用される谷津環境を整備・維持管理する。
	効果	生息環境としての質を向上させることで、谷津環境に生育する植物への影響を緩和できる。
事後調査	行うこととした理由	谷津環境への影響の低減を目的として谷津機能を維持した調整池の設置を行うものの、本措置は工事の実施中においてその内容をより詳細なものにする必要があるため事後調査を実施する。また、環境の質の向上と新たな環境の創出により失われる生息環境を代償することを目的として上記を含めた谷津環境の整備・維持管理を行うものの、本措置は対象種によっては知見が不十分であり、効果の不確実性があるため事後調査を実施する。
	調査内容	植物相調査
	評価方法	植物相・植生あるいは指標種の生息状況の経年変化による評価、予測結果との対比による評価

表 2.4-2 環境保全措置の実施状況と事後調査の結果の概要（谷津環境の整備・維持管理）

対象種	環境保全措置の実施状況		事後調査結果の概要
植物	【2025 年度】 2025 年度は、グリーンポート エコ・アグリパークの整備後の環境の維持管理を行った。		【2025 年度】 グリーンポート エコ・アグリパークの谷津上流部において、2022 年度に実施した谷津環境再生試験（谷津再生試行）の効果を確認するため、整備地及び未整備地において、維管束植物、植生に対する相調査を行った。
			（維管束植物） 早春季、春季、夏季及び秋季における現地調査の結果、整備地では合計 52 科 138 種（重要種 1 種）、未整備地では合計 55 科 101 種（重要種 1 種）の維管束植物が確認された。種数は整備地でより多くの種が確認された。
	整備前状況 撮影年月：2025年9月	整備後状況 撮影年月：2025年9月	（植生） 整備地を対象として植生図を作成した。
	谷津環境の整備状況		
	【2024 年度以前】 2022 年度に、グリーンポート エコ・アグリパークにおいて、谷津環境の整備・維持管理を行った。		

(2) 改変区域外への個体の移植

2025 年度は、維管束植物、蘚苔類及び大型藻類を対象として移植を実施した。また、2021 年度から実施している維管束植物、蘚苔類、地衣類、大型菌類の移植及び 2024 年度から実施している大型藻類の移植の環境保全措置の効果を確認するため、事後調査を実施した。

表 2.4-3 評価書の記載事項（改変区域外への個体の移植）

環境保全措置	内容	個体を工事前に改変区域外に移植する。
	効果	消失する種への影響を緩和できる。
事後調査	行うこととした理由	施工による個体への直接的な影響の低減と移植先における個体群の存続を目的として個体の移植を行うものの、本環境保全措置は対象種によっては知見が不十分であり、効果の不確実性があるため事後調査を実施する。
	調査内容	任意観察調査
	評価方法	移植個体の活着状況、予測結果との対比による評価

表 2.4-4(1) 環境保全措置の実施状況と事後調査の結果の概要（改変区域外への個体の移植）

対象種	環境保全措置の実施状況	事後調査結果の概要
植物	【2025 年度】 （維管束植物） 維管束植物の移植は 2021 年度から段階的に実施している。 2025 年度は、改変区域内に生育する保全対象種であるイカリソウ、タチゲヒメヘビイチゴ、シソクサ、キンラン等 7 種（13 地点）を改変区域外に移植した。	【2025 年度】 （維管束植物） これまで移植した 17 種の事後調査結果はおおむね良好であった。クロヤツシロランは、2024 年度に移植した個体は自生地へ移植を実施し、1 株良好な個体が確認された。ヒメナミキは、2023 年の移植地において、2025 年度から環境整備を開始した。その結果、1 つの移植地で良好な 51 株が確認された。残存率が低い種については、維持管理作業の追加実施等により対策を講じる予定である。
	 	 
	イカリソウ（掘り取り前） 撮影年月：2025年12月 タチゲヒメヘビイチゴ（掘り取り前） 撮影年月：2025年12月	クロヤツシロラン：移植個体の状況（結実） 撮影年月：2025年10月 ヒメナミキ：移植個体の状況（開花、結実） 撮影年月：2025年10月
	 	 
	移植個体等の状況（維管束植物の移植）	事後調査での確認状況（維管束植物の移植）

表 2.4-4(2) 環境保全措置の実施状況と事後調査の結果の概要（改変区域外への個体の移植）

対象種	環境保全措置の実施状況		事後調査結果の概要	
植物	【2025 年度】 （蘚苔類）蘚苔類の移植は 2021 年度から段階的に実施している。2025 年度はオオアオシノブゴケ 6 地点の移植（うち 4 地点は消失を確認）、ウマスギゴケの既存移植先の環境改善作業、ウマスギゴケ及びイクタマユハケゴケの既存の移植先への落葉対策を実施した。 （大型藻類）大型藻類の移植は 2021 年度から段階的に実施している。2025 年度は、個体の保全のためシャジクモ 2 地点を改変区域外に移植した。		【2025 年度】 （蘚苔類）ウマスギゴケ等の 5 種について、一部個体の確認がみられない地点もあったものの、おおむね良好に生育していることが確認された。 （地衣類）トゲサルオガセは残る 1 地点でおおむね良好に生育していることが確認された。 （大型菌類）マユハキタケはおおむね良好に生育していることが確認された。 （大型藻類）カワモズク 2 種について、藻体を確認されたのは 1 地点のみだった。シャジクモは 1 地点で確認され、やや良好であった。	
				
	オオアオシノブゴケ移植先（落葉対策としてネットを設置） 撮影年月：2025年12月	オオアオシノブゴケ 移植個体 撮影年月：2025年12月	オオアオシノブゴケ（個体移植） 【良好】 撮影年月：2025年10月	トゲサルオガセ（個体移植） 【やや良好】 撮影年月：2026年1月
				
	採取したシャジクモ藻体 撮影年月：2025年6月	シャジクモ移植直後の状況 撮影年月：2025年6月	マユハキタケ 【良好】 撮影年月：2025年10月	シャジクモ 【やや良好】 撮影年月：2025年7月
	移植個体等の状況（蘚苔類、大型藻類の移植）		事後調査での確認状況（蘚苔類等の移植）	

3. 専門家の助言の内容

本事業においては、専門家に事後調査項目の進捗について報告を行っている。

専門家からの、事後調査等の項目及び手法の設定並びに事後調査等のとりまとめに係る助言を、調査項目ごとに記載した。

3.1. 大気質、水文環境

表 3.1-1 専門家助言とその対応方針（大気質）

項目	専門家助言	対応方針
大気質	粉じん等について、工事の影響を把握することは難しいと思うがどうか。	ご指摘のとおりと考える。一方で、継続的な調査実施により、過去数年分の調査結果が蓄積され、この地域の傾向が把握できるようになってきた。今後大規模な造成工事が進められる中で、夏季や秋季を含めて高い値が継続するようであれば、影響の可能性を考える必要がある。

表 3.1-2 専門家助言とその対応方針（水文環境）

項目	専門家助言	対応方針
水文環境	河川の流況については、降雨後の直接流出率や降雨後の低減率などを整理すると、流況の変化が把握しやすい。	生活用水や農業用水が入っているようであり、特に農繁期は農業用水が使われているので流域特性を検討するのは難しい。しかし、秋や冬であれば、支流等の一部では降雨時の流出率等を算出できるところもあると思われるので、可能な範囲で検討する。
水文環境	蓄積データが重要なため、引き続き調査をお願いしたい。	ご助言のとおり対応していく。

3.2. 動物

表 3.2-1 専門家助言とその対応方針（動物）

項目	専門家助言	対応方針
猛禽類	これまで代替巣を設置していた地点は、オオタカの縄張りであったが、ペアが繁殖のために利用していない状況であり、代替巣を新たに別の縄張りで繁殖を行っていない箇所に移設するという理解でよい。	そのような認識で問題ない。新規設置地点では、代替巣の設置に併せて竹の除去により営巣環境の整備を行う想定である。
両生類・爬虫類	移設先の事後調査結果について、移設実施前の確認状況と比較すると、移設による効果（定着状況）の判断ができると考える。	ご助言のとおり対応していく。
	そもそも開放水面の維持には大きな労力がかかると認識している。植生が繁茂して日当たりが悪くなると、カエル類の産卵数やカエル類のエサ資源量が減少することが想定されるため、日当たりが良い開放水面は維持することが望ましい。そのために、例えばコンクリート水路等の人工的な材料を実験的に利用することも選択肢としてあると考える。近縁種の事例も参考になると考えており、例えばイモリについてはコンクリート水路のような止水域に何千個体というオーダーで確認されている事例もある。	ご助言を踏まえて対策を検討する。
	一か所の水域に複数種が集合すると良好に生育できない可能性があるため、環境が異なる多様な水域を創出した上で、各種の利用環境を模索するとよい。	ご助言を踏まえて対策を検討する。
	カエル類を定着させることに力を注いでいるため、その効果がヘビ類や鳥類の動態に表れているかを確認できるとよい。特に、指標になっているサシバとの関連を確認できるとよい。カエル類の定着状況を個別に評価するというより、生態系の中心（中間）にカエル類が位置しており、カエル類が定着することがヘビ類や鳥類の定着に結びつき、地域の生態系が保全されているということを示す方向で進められるとよい。 ヘビ類は成田地域に限らず個体数が減少しており、本事業においては県内で確認できる全種が確認されているので、そういった観点からもヘビ類を確認することは重要である。	生態系が保全されていることを示す指標という観点では、サシバは詳細に調査を実施している。ヘビ類は調査結果に偶然性が含まれると想定されるため、指標性という観点では特にサシバやカエル類に注目している。ただ、ヘビ類及びカエル類について移設完了後に定着状況の確認をしないわけではなく、事後調査を継続する計画となっている。
陸産貝類	水棲の貝類の取り扱いについて、確認した場合は可能な限り記録を取り、珍しい貝が見つかった場合は写真を撮影して頂きたい。外来種であるスクミリンゴガイを見つけた場合は、適切に駆除すること。	ご助言のとおり対応していく。
魚類	移設の実施時期について、個体の運搬時に魚体へのストレスがかからないことから想定どおり2月～4月の実施で問題ないとする。	ご助言のとおり対応していく。
	ミナミメダカについて、今後も継続的にモニタリングを行い、保全エリア内で繁殖していることを確認することが望ましい。ホトケドジョウについても同様の考えで、移設を行った後のモニタリングで繁殖状況を注視するとよい。	ご助言のとおり対応していく。

表 3.2-2 専門家助言とその対応方針（動物 つづき）

項目	専門家助言	対応方針
ニホンイシガメ	多くのニホンイシガメ類の遅延受精は2年程度であると言われているため、3年程度見ればよいのかもしれない。	ご助言を踏まえて対策を検討する。
	隔離した管理の結果、何年後まで産卵するかによって、ニホンイシガメハウスの成体が遅延受精によっていつまで交雑個体を産む可能性があるのかを考える参考になる。	ご助言を踏まえて対策を検討する。
	ある程度、土壌温度が高くないとメスが生まれてこない。ニホンイシガメハウスの幼体がオスばかりである場合は、加温してメスを増やしていく必要がある。	ご助言を踏まえて情報を収集し対策を検討する。
	温度管理による産まれてくる幼体の雌雄の調整について、ニホンイシガメで実施した例はないが、研究レベルでは29～30度を境に低い方がオス、高い方がメスに分かれることが調べられている。ただし、いつ頃から温度調整をすべきであるかは分かっていないが、30度程度に調整すればメスの割合が増えると想定される。	ご助言を踏まえて情報を収集し対策を検討する。
	2024年度の室内飼育の越冬の死亡について、原因が分かっていて改善できるのであれば野外越冬で良いと思うが、それができないのであれば加温越冬にするしかないのではないかと。	ご助言を踏まえて対策を検討する。
	野生のニホンイシガメは、水の流れのある凍らない土水路で越冬することが多い。湧水がある場所や、ニホンイシガメハウスの周辺の流水を活用できるとよい。	ご助言を踏まえて対策を検討する。
	千葉県内の各地で生息域外保全を行っているものの、多くのニホンイシガメがアライグマ等に捕食されていることから、NAAの取組が非常に重要になってきている。	ご助言を踏まえて対策を検討する。

3.3. 植物

表 3.3-1 専門家助言とその対応方針（植物）

項目	専門家助言	対応方針
維管束植物	移植に労力をかけるのは必要だが、移植後の維持管理も重要である。他事業では移植後に十分な維持管理ができずに移植個体が消失してしまう事態が散見されることから、移植して満足するのではなく、移植個体が生き残るように移植後のケアをきちんとして頂きたい。加えて、事業完了の最終段階を見据えて、移植経緯や自生地に関する情報等を示すことは地元住民への還元にもなり、重要である。	現在、移植が完了していないため移植前の環境整備を行うことが主目的になっているが、今後移植が進むにつれて、移植先の環境整備に注力することになると考えられる。
地衣類	樹皮の表面のpHなど化学的性質も確認するとよい。一般的なデータと比較してみるとよい。また、樹木の形状や向き（立ち木の傾きなども）や地衣類が生育している高さなど物理環境も影響している可能性もある。	ご助言を踏まえて対策を検討する。
	生育地点が限られているということは、適切な環境が周囲には無く、分布が広がらないということである。実験的に移植先の条件（高さなど）を変えてみてもよい。移植の際は、合わせられる条件は、移植元と合わせた方がよい。	ご助言を踏まえて対策を検討する。